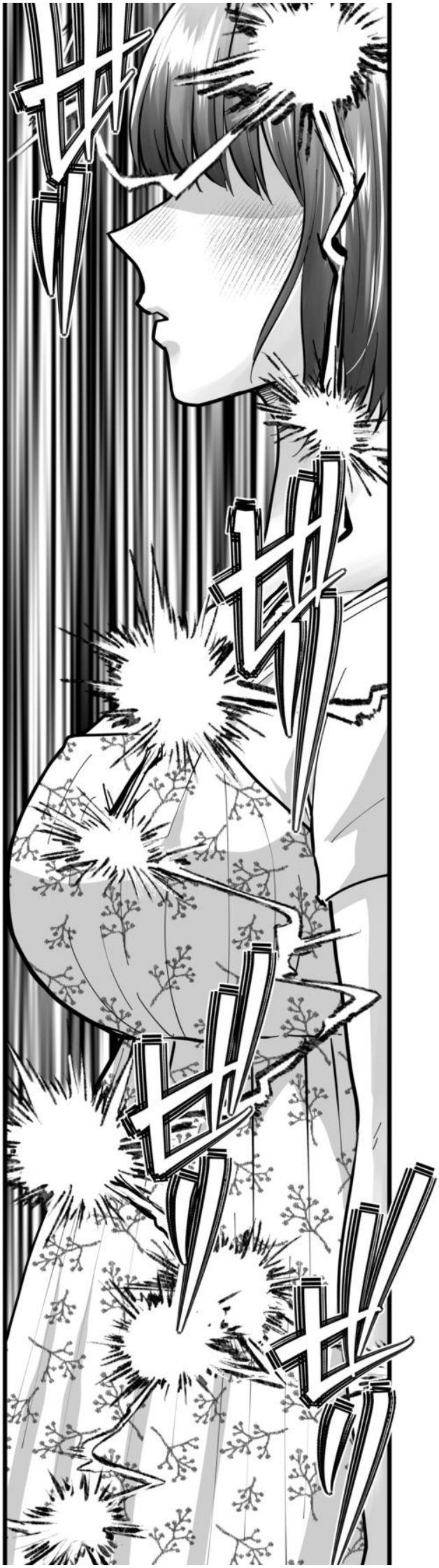
増える仔羊を
手籠めにして
教祖になっちゃった話
非常口

ピンポーン……♪
ガチャ。
はぁ～い
ズゥゥゥ……ン……
貴女は
神を信じますか…？

あの…？

膣キュン
キタ――!!



妻鹿みちる、34歳。夫と結婚してから8年目の小説家
主に書いてるのは官能小説
ありがたいことに毎回重版が
かかるほどには読んでもらえているらしい
ふぅ
パーター
月23日 木曜日
6:25
今日はこのくらいで
いいかなぁ…
しかし半年ほど前に夫は
5年ほどの海外出張が決まり
私も国外は億劫だったために
別居生活が始まった

今のこの生活に不満があるわけでは決してない

帰ってくるのは年に一度か二度…
夫のことは愛しているけれどでも…

たまには刺激だって欲しくなる
主に体の

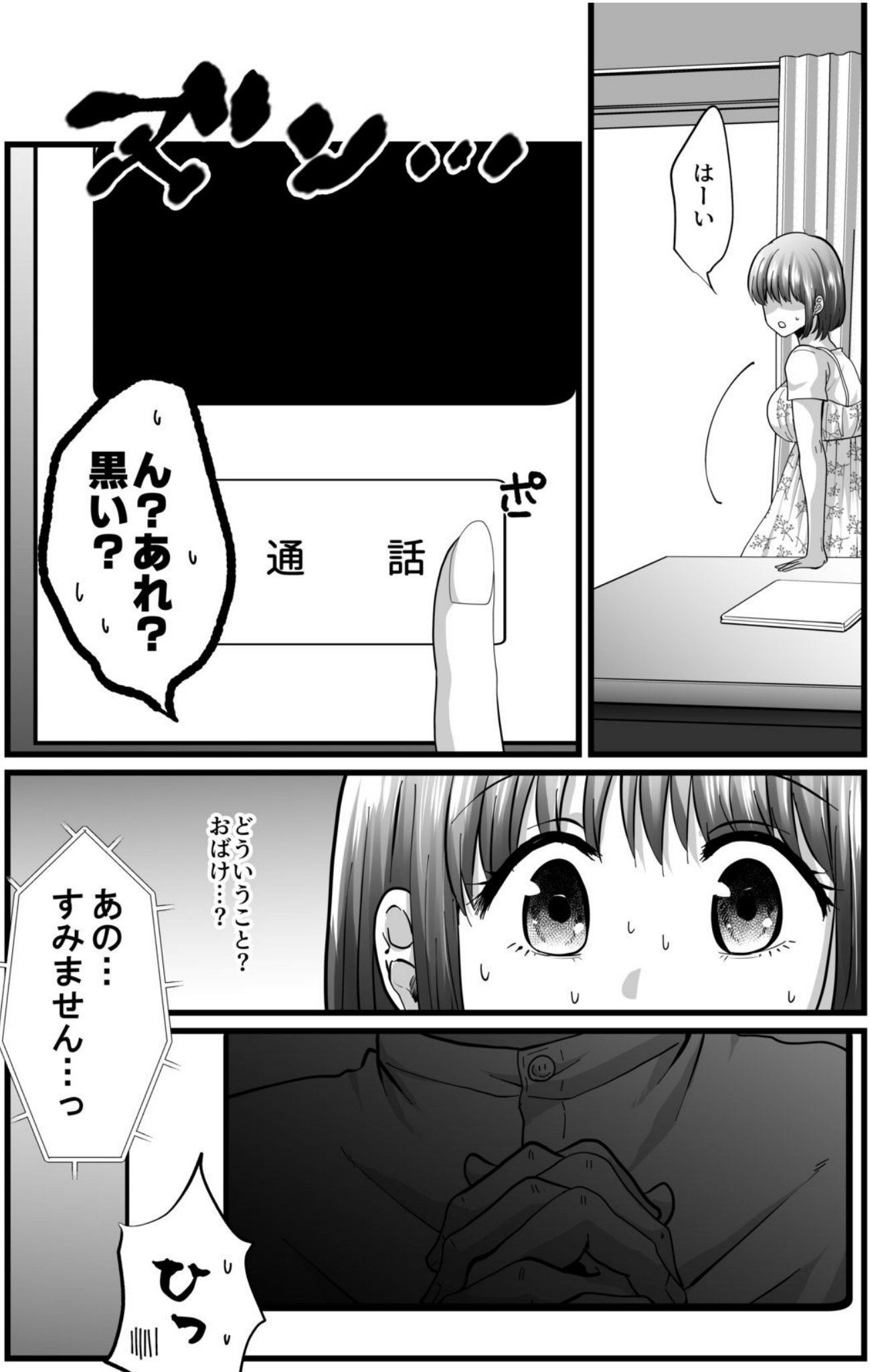
ともくん
早くみちるに会いたい
私のセリフ～
ともくん
愛してるよ
みちる
私も
ピン。

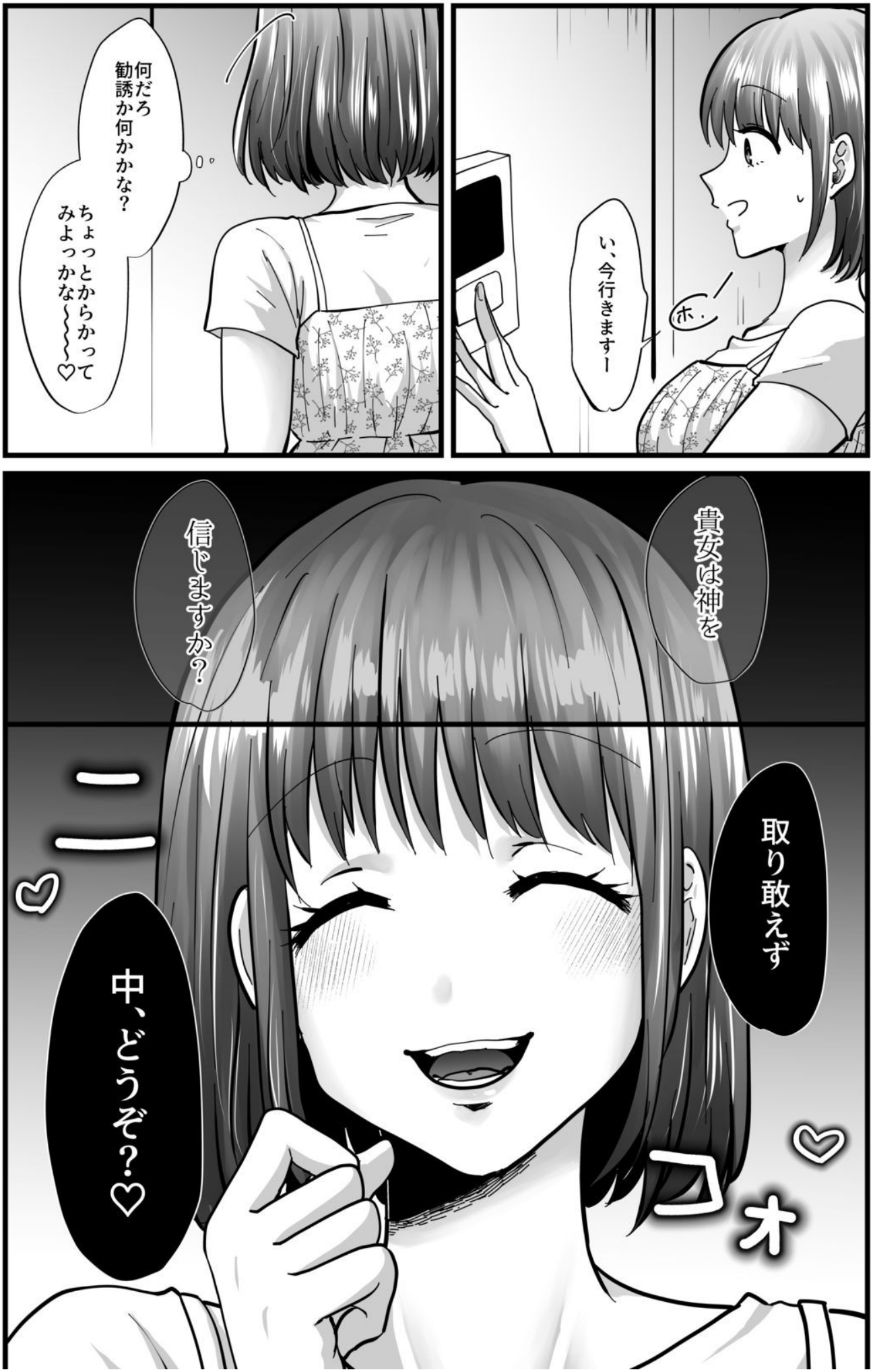
こっちにいる頃から

スン…

元々体の相性は良くなかったんだよねぇ…
早いし…

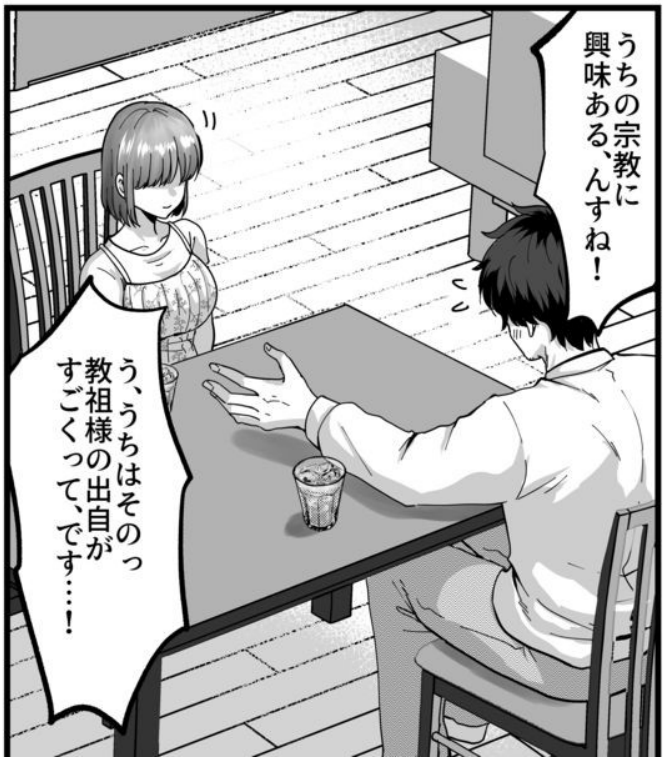
ん♡
すぅ…
ピンポ
ピンポーン
ぐちゅ♡
!!?


はーい
ポー
通　話
ん？あれ？黒い？
どういうこと？おばけ…？
あの…すみません…っ
ひっ


い、今行きますー
ホ…
何だろ勧誘か何かかな？
ちょっとからかってみよっかな～～～♡
貴女は神を
信じますか？
取り敢えず
中、どうぞ？♡
コォ
♡
♡

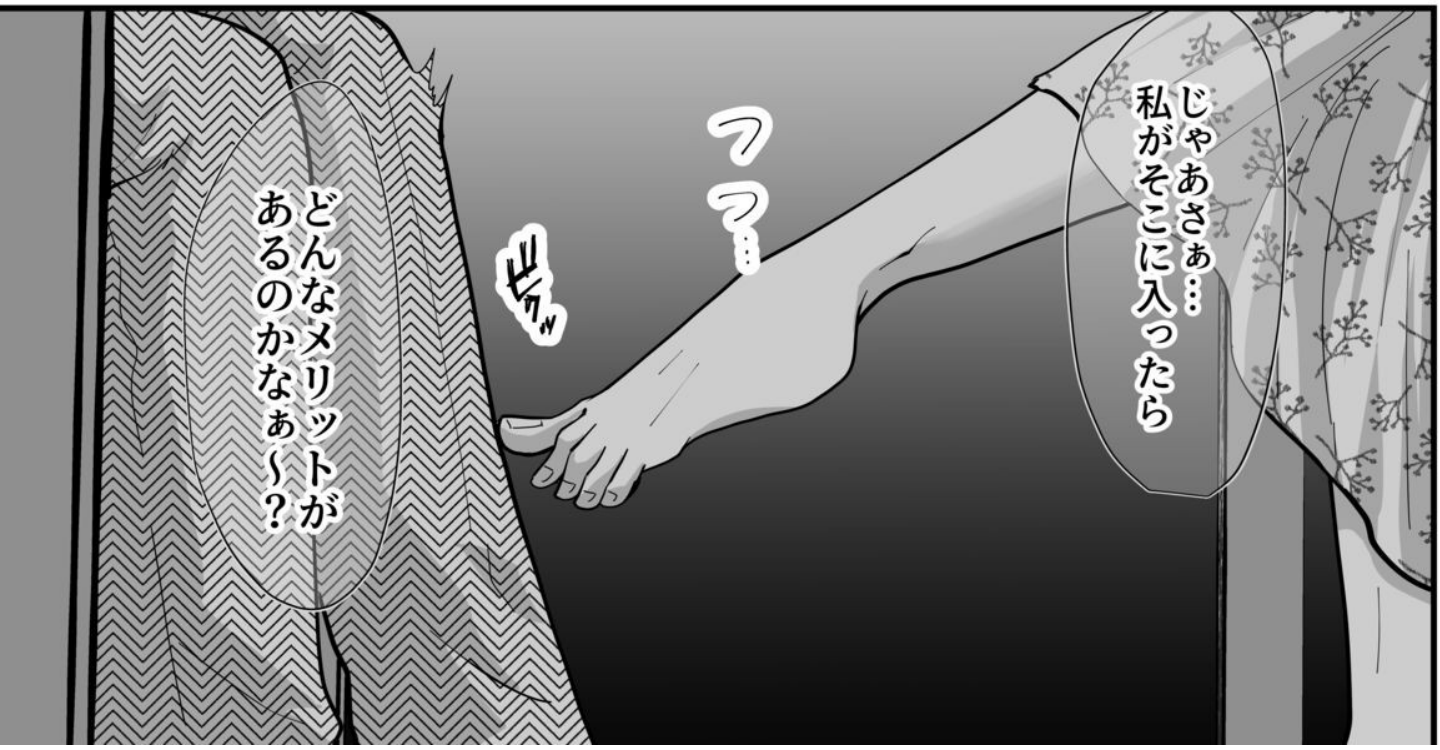
どうぞ～
ヤラシ。
麦茶でよかった？
あ、や、大丈夫です…僕、その…
急に引き入れちゃってごめんねぇ
私いつも一人で退屈してて話し相手になってくれたら嬉しいし
そちらの「希望のまなこ」？のお話も聞かせてもらいたくって

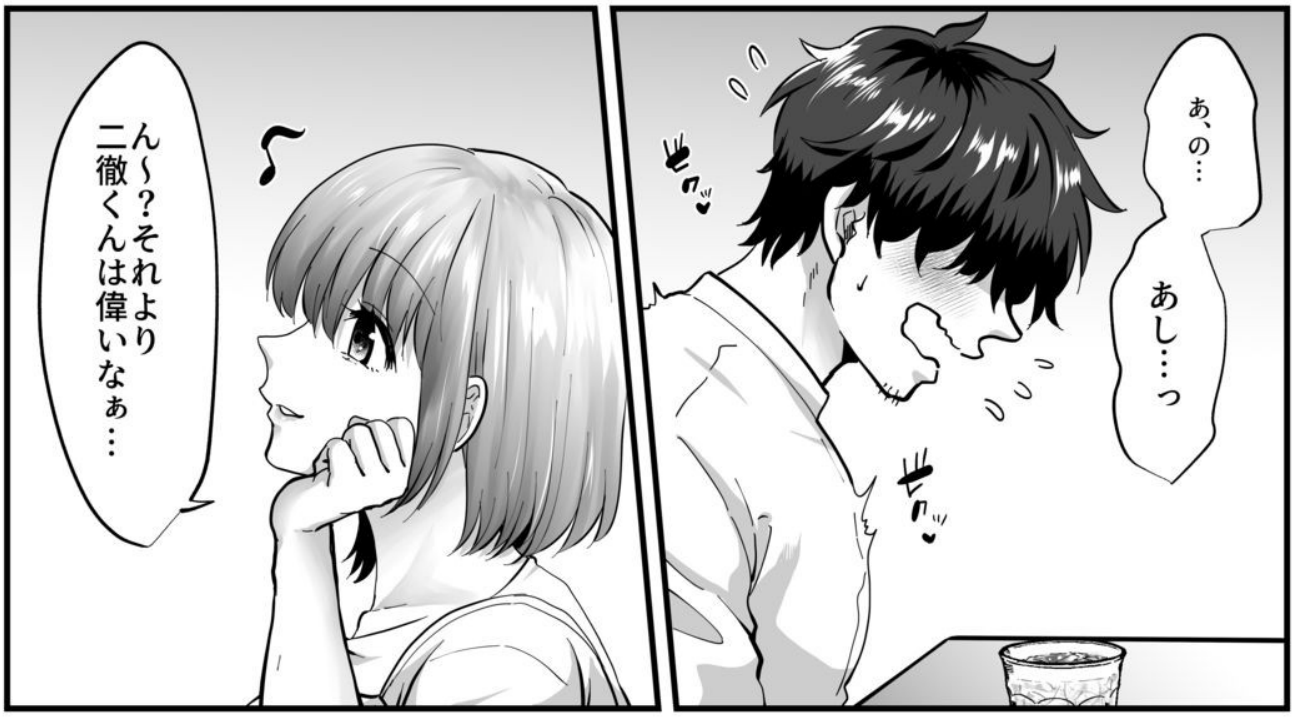
ぉぁぁぁ
う、うちの！


うちの宗教に興味ある、んすね！
う、うちはそのっ教祖様の出自がすごくって、です…！

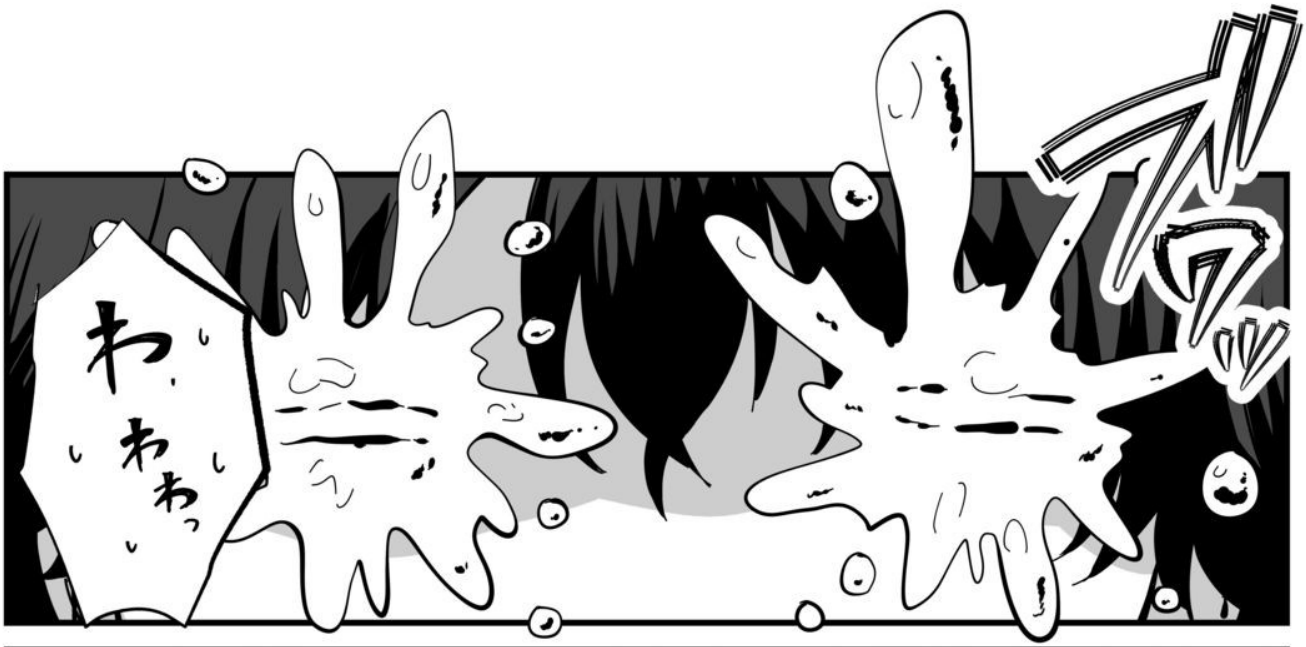
うーん、普段から敬語使い慣れてないんだろうな～
うちの教徒たちは毎日熱心に6時間祈りを捧げるんです。
自分たちで育てた作物しか食わねぇし
家畜もいるし牛もいるんです
水も全て〝希望の水〟を使ってて…あ、ちなみに〝希望の水〟は毎日お布施を5万以上払えば5セまで飲み放題でお得です
〝希望の水〟で病気が良くなった人も知り合いの知り合いにいるって話で!!買い取りも1本からできるんでぜひこの機会に…
それから…
話は全然入ってこないけど何ていうかこう…見た目と中身が…

さすが～
へ～～～～～～
そうなんだ～～
ド性癖!!


じゃあさぁ…私がそこに入ったら
つつ…
ビクッ
どんなメリットがあるのかなぁ～？


あ、の…
あし…っ
ん～？それより二徹くんは偉いなぁ…

私なんか日がな一日家で仕事してるだけだもん
毎日そんなに熱心にお祈りしてるんだもん
私なんかに幸せのお裾分けまでしようとしてくれるなんて
すごい幸せになっちゃうね、きっと


わ、わわっ

ごめんごめん
嫌なこといっちゃった？
ティッシュ使っていいよ〜
い、いや、
ちがくて…
ん〜…じゃあ…

いーっぱい頑張ってる
二徹くんに
ぎゅ
私がご褒美
あげよっか♡

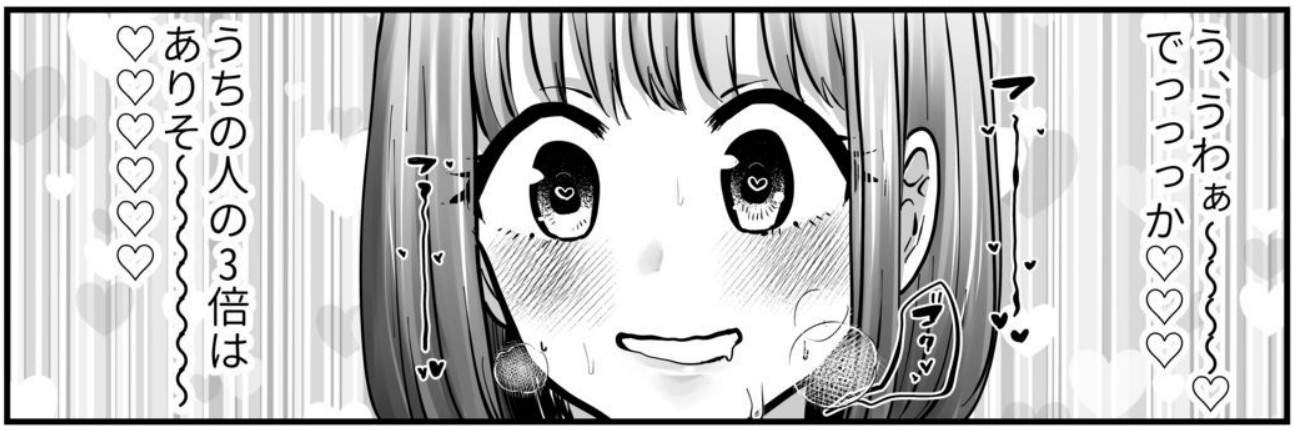
なっ！
カァァァ…
んな…っ?!
何してんだアンタ?!
ね、
直に触ってみたくない？
そんな、
…こと…
2人だけのヒミツ…
作ろう？♡
ゴクン……

っあ、♡
いー子ねぇ♡
ん♡
二徹くんはすごぉくいい子♡
ちゅーちゅー上手ねぇ♡♡
ちゅぱ♡
ちゅぱ♡
はぁ♡
ん、ぶ♡
ぢゅぅ♡
ぢゅぅ♡
ぶーッ♡
ぶーッ♡
ぢゅぅ♡
はぁ♡
ちゅぱっ♡
はッ♡
あ♡ん♡

妻鹿さっ…そっ…の…♡
れろ♡
れろ♡
はぁ♡

んっんぅ♡
っは、ぁ♡本ト、じょー…ず♡
は♡
ゾク♡
ゾク♡
じゅるる♡
ぢゅるる♡

謝んなくていーの♡
たぷん♡
ほら反対側もちゅーちゅーしようね♡
うぷ
んっ♡ふふ♡ここに悪い気が溜まってるから泣いちゃったのかなぁ♡
ハァ♡
ぐぅ♡
私がたぁくさんしこしこして
ビクッ
すす
ぼ
ろんっ
出しちゃおう
悪い気沢山…
ねっ?!♡


う、うわぁ～～～♡
でっっっか♡♡♡♡
うちの人の3倍はありそ～～～～♡♡♡♡♡♡♡
ゴクッ

掴み切れない大きさ♡♡
にゅちっ♡
づ?!
!?…っおっ♡っっ?!!!
ぐおぉお♡ぉ♡ぉ♡ぉ

くっさくて
濃いねぇ…♡
これはまだまだ
悪い気が溜まってるのかなぁ？

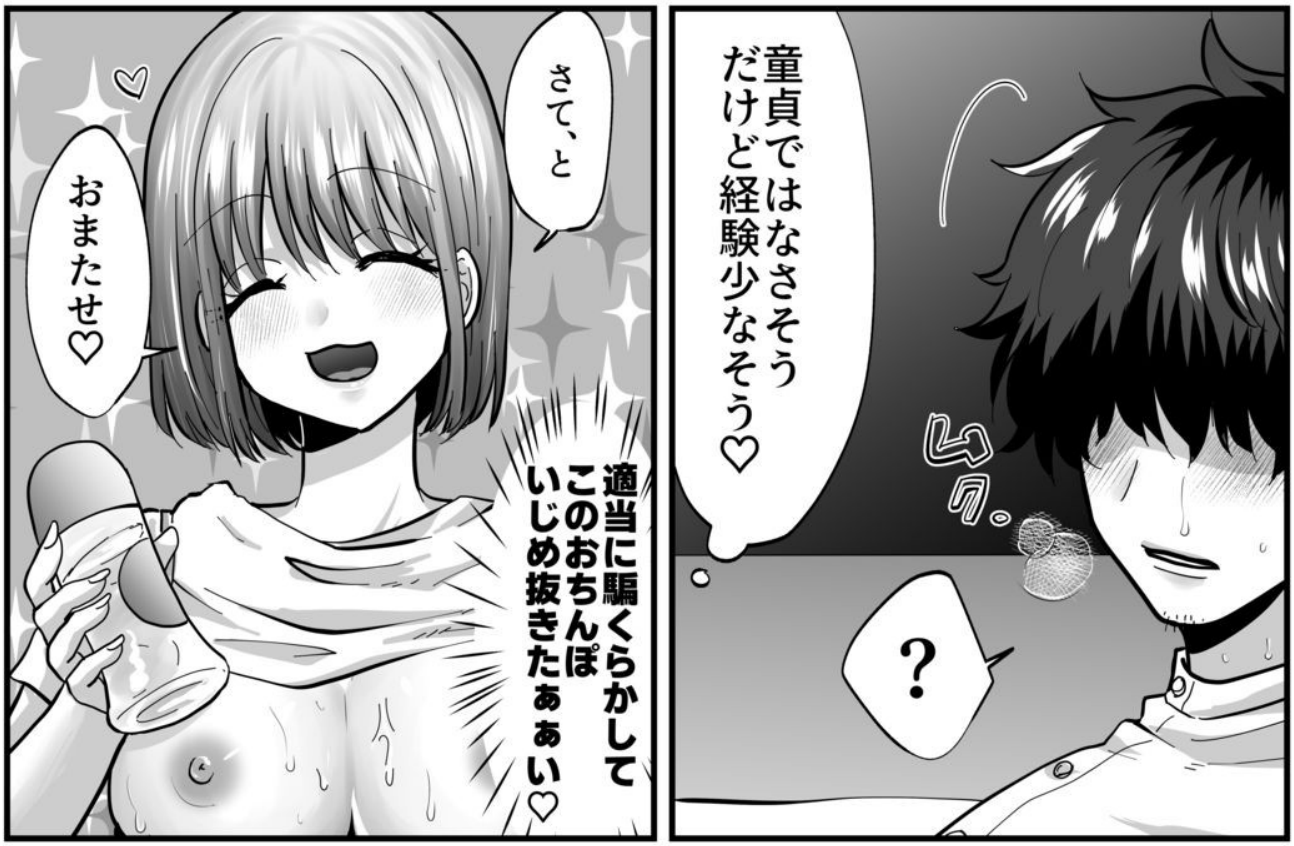
っはぁ…♡
ぼ、ぼくの…道が
みつかんねぇのも…

そう♡
おっ♡
ここに溜まった
悪い気のせい♡

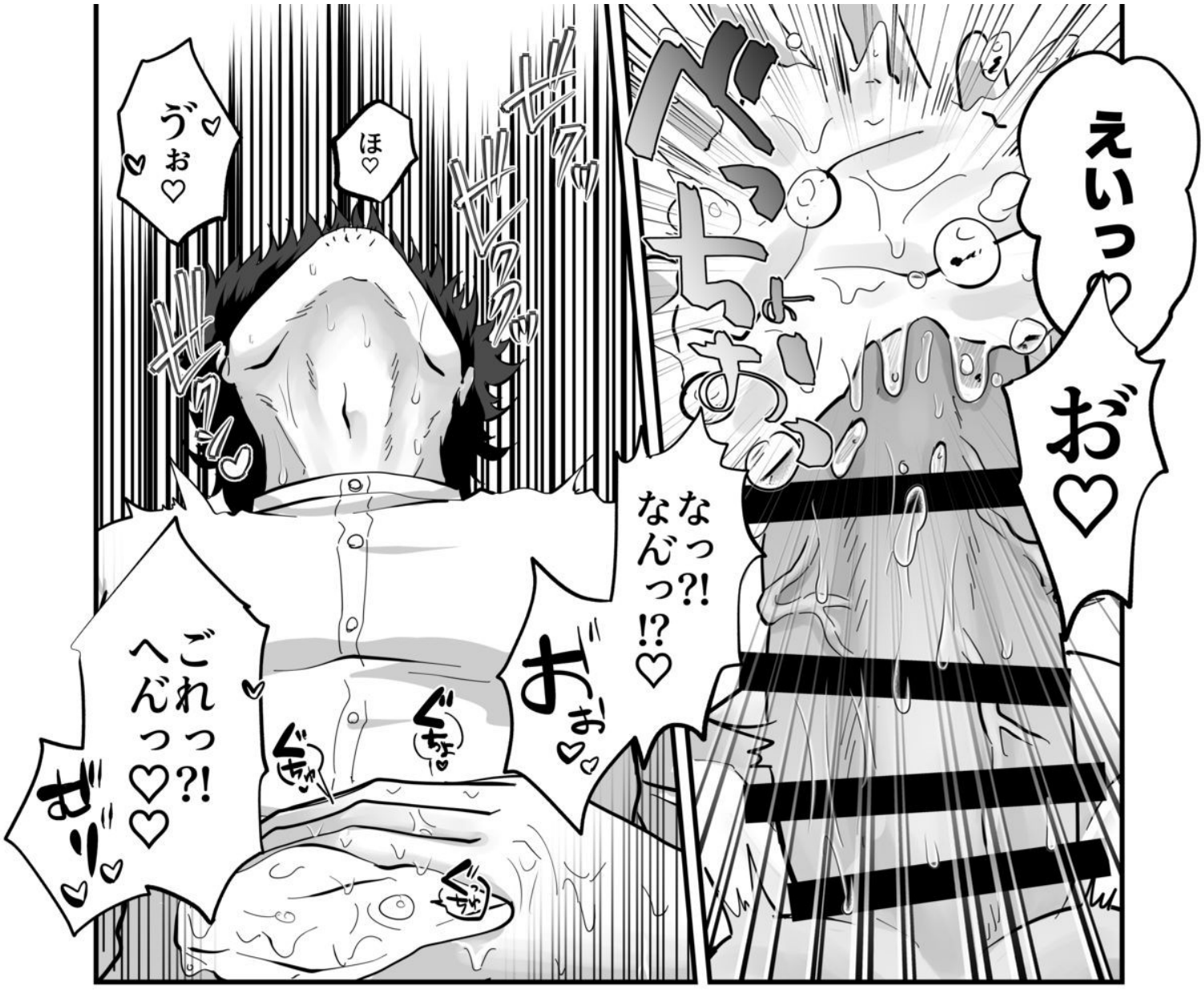
じ、じゃあっ
教徒から…ッ♡
陰口、ぅ♡
言われんのも♡

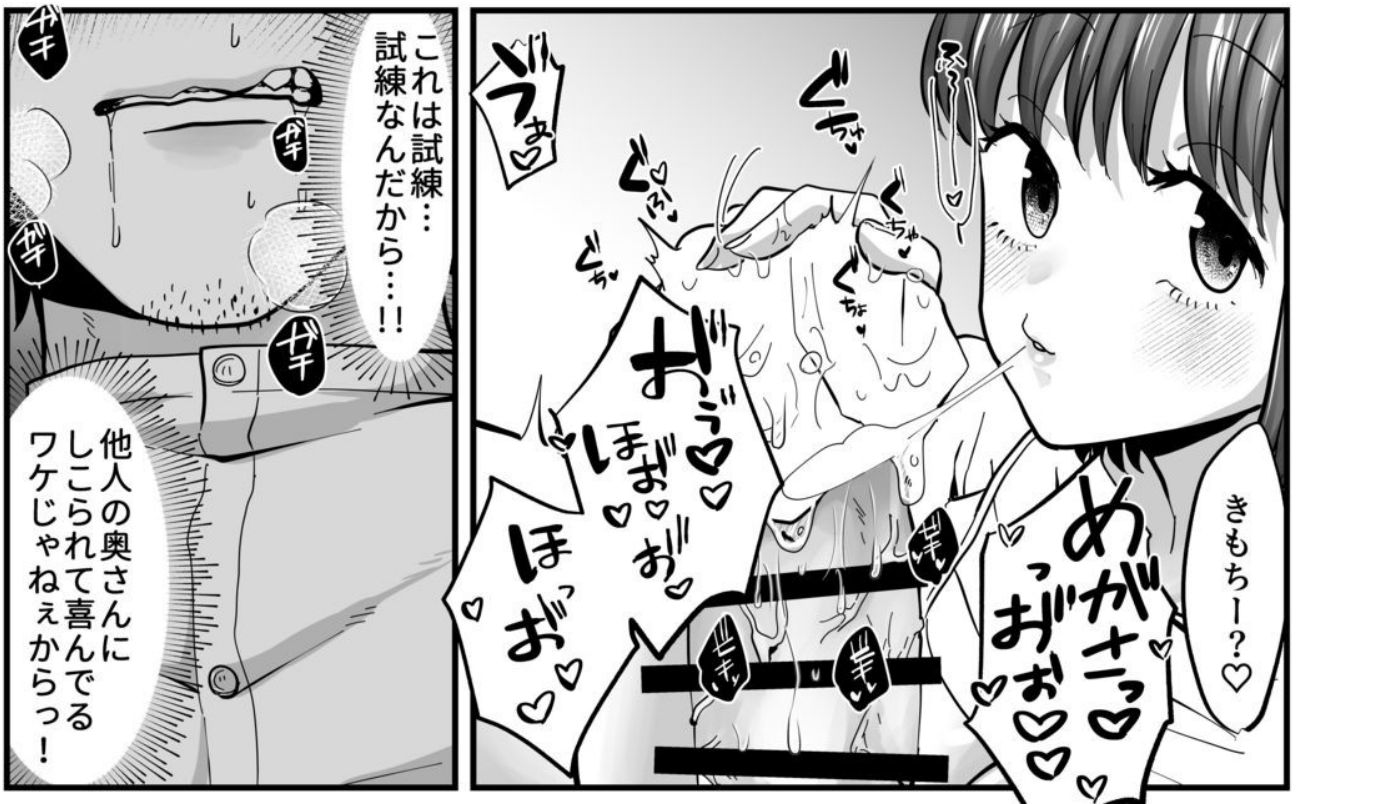
ぜーんぶ悪い気が
溜まってるせい♡
しらんけどw

ちょっと待っててね♡
もしかしたら
ガタン。
毎日祈っていたのは
妻鹿さんに出会う為の修行だったのか?!
ということは…
今のこの儀式は
あーった♡
教えであり試練なのか…?!!


童貞ではなさそう
だけど経験少なそう♡
ムク。
？
さて、と
おまたせ♡
適当に騙くらかして
このおちんぽ
いじめ抜きたぁぁい♡

トロォ♡
とぷっ
ん!??
どぼっ
どぼっ
なんっ…??!
お♡
んー？
つめたっ…?!
気持ちよぉく悪い気を
出す準備だよ～♡


えいっ♡
お♡
ぐちょぐちょ
なっ?!
なんっ!?♡
おぉ♡
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ごれっ?!
へんっ♡♡
ぉ♡
ほ♡
うぉ♡


きもちー?♡
めがさっ♡
おぉ♡♡
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
ぐちゅ
うぉ♡
おぅ♡
ほぉ♡♡
ほぉ♡
これは試練…
試練なんだから…!!
ガチ
ガチ
ガチ
他人の奥さんに
しこられて喜んでる
ワケじゃねぇからっ!

お♡お♡ぢゅ♡
でりゅ♡でりゅ♡♡おぉ♡
めっ♡めがイっ♡放しっ♡
だめ～
みちるだよ
ほら言って？
みーちーる
あ♡
み、みぢるっ♡
も、もぉ♡
それっ♡それぞれ♡
もぅ♡

お名前呼べて
偉いねえ♡
ぬりゅう♡
ほぉら、
いいこいいこ♡

は～
ポロ
おふっ♡
ポロ
す、
は、
す、
だ、出し、てぇ♡
ぢっ、それやだ、♡
しゃせ、しゃせぇ♡
しだいいい♡
ご、ごべんなざ…っ
シャラ

謝んなくていーよ♡
…あ、これで巻いたら
もーっと悪い気が出てくるかも♡

そ、それはっ！
教祖様から直々に洗礼を受けた…
ごりごり♡当たる♡
おぅ♡
おー♡
そうなんだぁ♡
じゃあいっぱい効きそう～♡
ほーら、ぶくー♡ってしてきてるねえ♡出そう～？

んふ♡
濃おい♡
ひぅ♡
んー？なぁに？
数珠きもちー？
ち、ちがっ♡
や！♡いやっ
もっとキツく
絞めてほしい？
ぎもぢぃ、けど♡
出せないぃ…っから
は、はず、
外してっ♡

何のためにいっぱい
時間とお金
かけてるの？
分からないなら
入る気…
失せちゃうなぁ…

お祈り出来て偉いねえ
……でもね
ぬとぉ
これくらいで
泣いてたんじゃあ…
信仰心足りない
んじゃない？

い、う
…っう
ず、うそっ…
うそです！

ぼ、ぼくっ…
が、がまん…
ぐすっ
ぐすっ
できまずっ♡
ろ、ろぅ♡
う、…っ出じだいっ
けどっ…っ♡
がまんっ…
しま、ずっ…う♡
ごっ
Yくん
あは♡そうだよね♡
それじゃあ…
ガマンできる
良い子にはぁ…♡
ドッ
ドキ
ぼ、ぼっ
ダメだって…
だめっ
ドッ
ドキ
ご褒美にぃ〜…
ドキ
それはマジでっ
ドキ
ダメだから

悪い気をココで直接
吸い上げてあげなきゃあ♡
うぉ♡
うぉっ♡

ほ、お♡♡なっ♡
生マ●ゴ♡♡
は、はらむっ♡
孕んじまうっからぁ！
ゴム、ゴムじでっ…♡♡

ゴムっ…
あんっ♡
おぉ〜

あぁんっ♡
あはっ
バチュッ
すっごい
おくまでっ♡
届いてるぅ♡
んぅ♡
おっ♡お♡
ち●ぽ♡
ち●ぽ
とけりゅ♡
ずぽっ
お♡
知らねえ♡♡
こんな感覚初めて
の時なかった♡♡

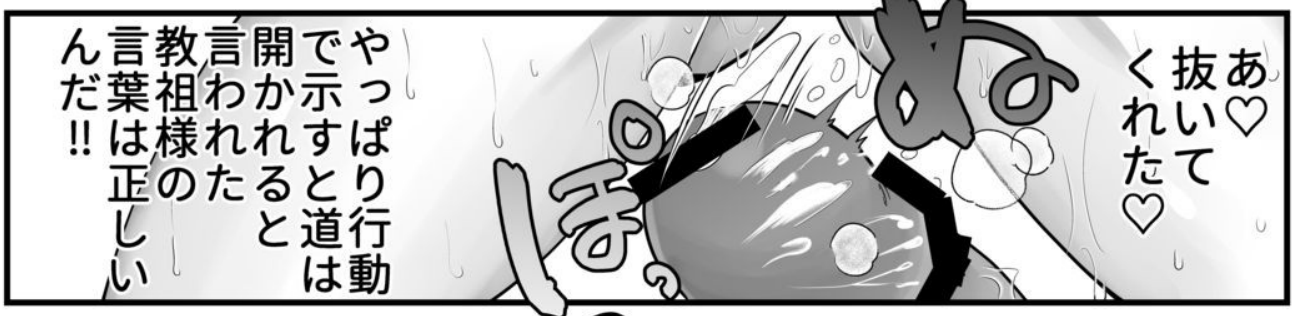
うおあ♡
ばちん
ぐいっ♡
おん♡
でかすぎ♡
怖いしち●ぽが痛い♡♡
死ぬっ♡気持ち良い♡♡♡♡
ふぅ♡はっ♡あ♡
びっくんびっくん
してる～♡
お腹で大暴れして
こわぁい♡
死んじまう♡♡
ま●こに殺される♡♡
ひっ♡
うぉ♡

はぁ～
これぇ…
外したらぁ…♡
はぁ～
ぬとぉ…♡
ほぉ♡
出ちゃいそぉ
ねぇ～♡

だめだめだめだめ!!
絶対ダメだって♡♡
いくら修練とはいえ
人妻を孕ませるなんて
許されるわけない♡
教祖様、これはいいこと
なんですか?!いいことの
わけがないじゃねぇかっ
あーおっぱい吸いたい♡♡
違うっ射精したいっ♡♡
あー違う違う!
射精したいっ♡違う!♡

ひぅ♡はぁっ♡
はぅっ♡
は、外さないで、のがぁ…
ぅっ♡
し、真実、らからぁ…♡
ふふ♡
大きさ以外はだめだめばぶちゃんおち●ぽでおま●こ耕すのきもちーね♡
ねえ…ほんとうは～？♡
おっ♡
うぎゅっ♡ぐ♡…っかは♡
も、だめ、らからっ
んっ♡強情な子ぉ♡
おん♡
だぁれも見てないんだし罪にならないでしょっ？♡
私も共犯になってあげるんだからっ♡
ぶおっ♡おぅ♡お♡
おまんこ♡ぎぼぢいい♡

そ、それいじょお、はっ♡
じゅぽっ♡
はっ♡
じゅぽ♡
だめっだめっお♡むりっ♡
むり♡
ふ――ん？♡
ぱちゅっ♡
ぱちんっ♡
ぱちんっ♡
ぱちゅっ♡
救わないわけないっ!!
ぎゅっ♡
だってこんなに良い教徒なんだからっ!!救ってくれよ!!

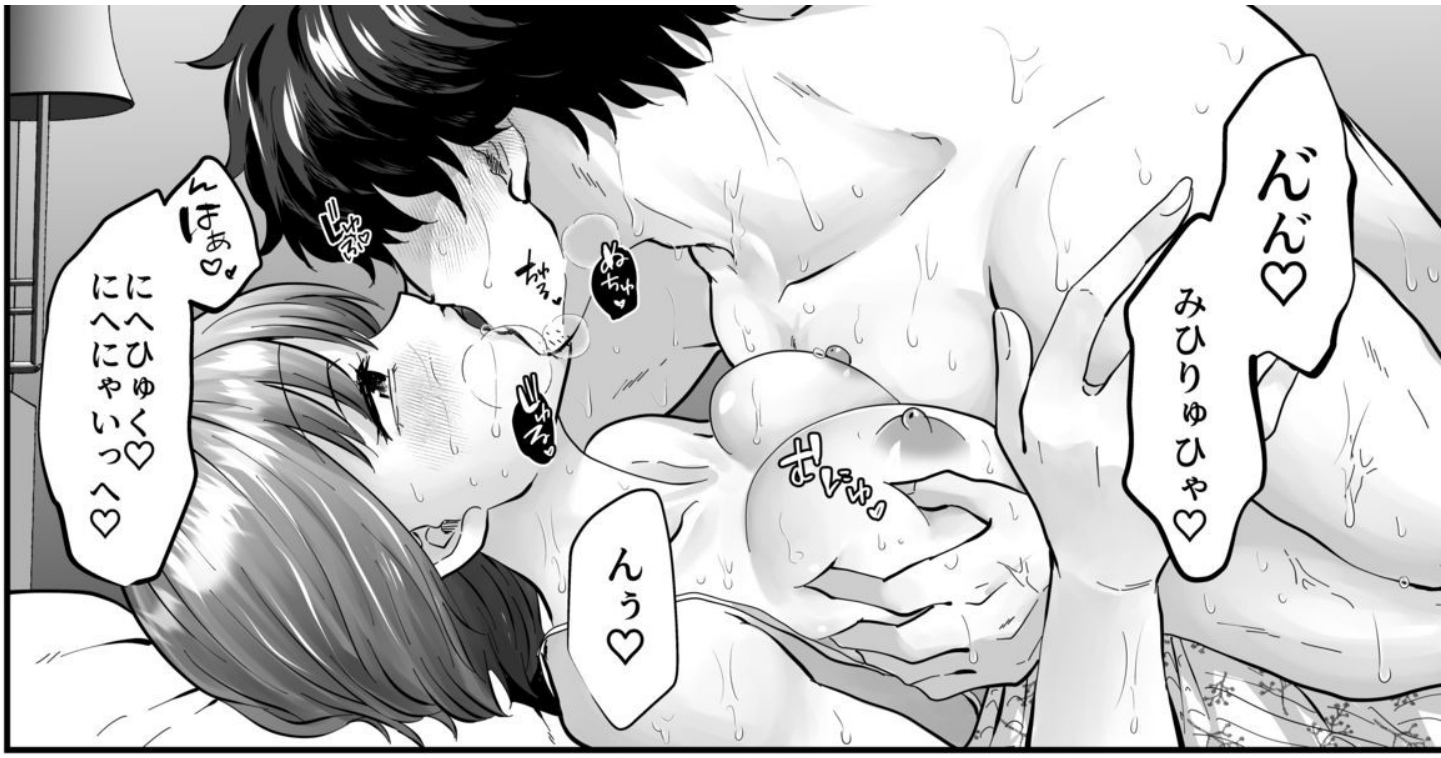

あ♡抜いてくれた♡
ぽっ
やっぱり行動で示すと道は開かれると言われた教祖様の言葉は正しいんだ!!

えいっ♡
ぐりっ
ズボォ
…っへ？
パラ、
パラ、

おぉおぉ
ほおぉ♡
勢いすごぉい♡♡
むぐっ♡だめ♡地獄行きっ♡
ほぉ♡♡おっ♡
おだまっ♡とげる♡
おだまっ♡焼げる♡
みんなっ♡意地悪だっ♡♡♡

ぱっつぱつの金玉から
どんよりした陰の気
出てきてる♡♡
ふふ♡よしよし♡
魂は裁かれちゃう
かもだけどぉ…♡
ぬりゅ♡
ぐりゅ♡
おち●ぽは天国に
イこうね♡♡
ぴゅっ♡
ぴゅるっ♡
ぴゅるるっ♡
ぴゅるるるっ!!
ぴゅっ♡
ぴゅっ♡
ぴゅっ♡

あらぁ
ふふ、
ヤギじゃなくて
オオカミじゃない♡
童話かしら？
っ!!
みちるさんっ
!!
ん?!♡
このメスを僕の
ち●ぽで墜としてやりてぇ♡♡
んぷ♡
んん〜〜♡
ぼぶん〜？


んん♡
みひりゅひゃ♡
んぅ♡
んほぁ♡
にへひゅく♡
にへにゃいっへ♡

ほぉら
解放しちゃお～♡
みちるさ、
そんなっ導かれ方
したら…ぼく…♡
押さえつけ
なくたって…
どこにも…

いかな…
ずおっ!?♡
おっ♡ほっ♡
ごごごー!♡
びくんっ
おくっ♡
びくんっ
ひっ♡
精子入ってきてる♡♡
挿入れた途端に出すの
反則♡♡
ずお♡
まだっ♡
でてる♡♡!
カリでもがっちり
しがみついてるっ♡
でかすぎっ♡
ち●ぽしゅっごぉ♡
ぼ♡
ぼ♡
ぼ♡

みちるさん！
わぱっ!!
あん♡
おま●こすることしか
考えらんねっ♡♡♡♡
セックスが祈るより
気持ち良いのいけない
ことなのにっ♡♡
ぎもぢよずぎでっ♡♡♡
パチュ
パチュ
パチュ
パチュ
パチュ
パチュ
ぽっ
ぢゅ
はっあんっ♡
はっあんっ♡
ぐぅ♡
お♡
ぢゅぷ
ぢゅぷ
ぢゅぷ

おっふぅ♡
チェリー丸出しピストンなのに♡
ち●ぽおっきいから擦れる範囲でかぁ♡♡
祈りに縋(すが)るのは無〜駄♡♡
目合(まぐわ)いがねっ♡ん、二徹くんをっ救ってくれるの♡
…っすく、う？
そう♡
私の中に溜まりに溜まった不浄な欲を出せば全てうまくイくからぁ♡
おっ♡
あり、がと…♡ござ…
おぉ♡

ビュルルルッ
あっ♡
おぅ♡
おたしもいぐ♡
出ちゃったんだぁ♡
また浄化
進んじゃったねぇ♡
あっ♡
ぐっ♡
ありが、とお♡
ござい、ます♡
お♡
ぐぐぐぐっ
ほっ♡
ほお♡ごっ
まだでてる♡
おん♡

んおっ♡
抜けちゃっ…
あん♡
ぬ
ぽんっ
まだ全然元気ねぇ♡
お♡

んふふ♡♡
まだ澱んでるなぁ♡
はっ
はっ
はっ
朝まで修行…
シよ？♡
……っ
ほーら
ココが修行のつづき…
待ってるよぉ？♡
くはぁ♡
ムワァ
くちっ
くちっ
ポタ、
ポタ、
ポタ、

はぁっ
ふうっ
はぁっ
！
…これ…！
ドキッ
それはねぇ
二徹くんがぁ
本当に信奉すべき
ものの象徴だよ♡
知らんけど♡
ﾍﾍﾟﾛ

あれ、僕ここに…
網膜に焼きつくまで覚えておいて♡
ぐる
ぐる
ぐる
……うん
空になるまで
しん。
正してあげるから♡
何しにきたんだっけ…
うぉっみちるさ♡
ぬりゅ
ぬりゅ
ぐ
いい子はここに挿入ろ♡
ぴゅ
は、挿入ぐる♡
ぼお♡
ぴゅ
迷えるおち●ぽ♡いらっしゃぁい♡♡

たぷん♡
ブチュッ!!
ぷちゅ♡
おっ♡
ごぉ♡
何も考えらんなくっなるっ！♡
いいのっ♡
私と繋がることだけ考えぞ…
ぱっ♡
ぱっ♡
ぱっ♡

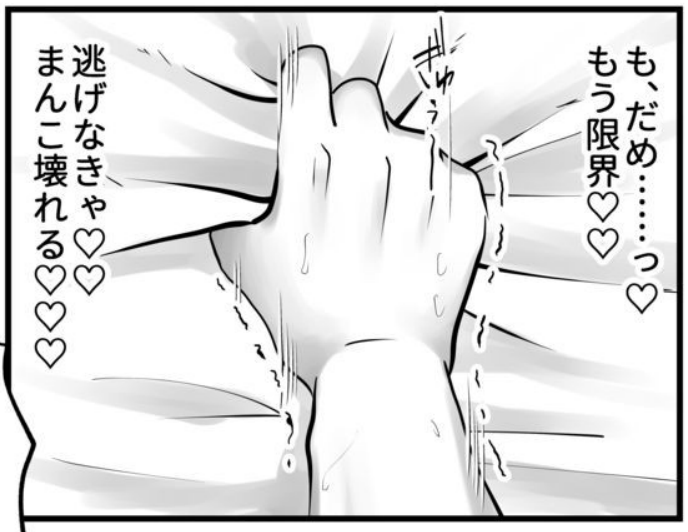
みぢる、さ、とっ♡
出会う、の♡
おそくてっ
ごめ、なざっ♡
神聖なポルチオ様にぃ♡
ぶっかけるっからぁ♡♡
許してっ♡
ほぉ♡
んんっ♡
射精るっ♡♡
掘削やば♡
あの人も挿入ったことない
とこまでぶち抜かれてる♡♡
まだ出る♡
お♡
お♡
あっ♡
ん♡

無理だコレ♡♡
絶対無理♡♡♡
子宮タコ殴りすんの
やめらんね♡♡♡
でもっこれ以上人妻に
手エ出し続けたくねぇ♡
おっ♡マ●コ絞まる♡♡

なにこれっ？
なにこれっ?!
もっと大きく
なるの?!
に、
にてっ、く…
おおっ♡ごめんなさいっ♡
馬鹿になり
そうなくらい
効くぅ♡♡

プシャァァ
おっ♡
おしおっ♡
とまんないぃ♡
おっ♡
ガレっ
ありがとぉっ♡
ございまじゅ♡♡
もっと高みに
昇らせてくださいぃっ♡♡

バチュッ!
バチュッ♡
バチュッ
バチュッ♡
ズプッ♡
ズプッ♡
ズプッ♡
みぢるざっ
もっとっ
もっと♡♡
おっ♡
はげしっ♡
どりゅ
おっ♡
おっ♡
まだイグ♡


も、だめ……っ♡
もう限界♡♡
逃げなきゃ♡♡
まんこ壊れる♡♡♡

みぢるざっ
ガシィッ
おほぅ♡
うひっ!?
逃げちゃ
やだっ…♡♡

みちるさんが僕の
教祖様だったんだ♡♡
中あ♡
かき混ぜちゃだめっ♡
あっ♡
ばちゅ♡
ばちゅ♡
ばちゅ

だめだろっ♡
ほぉ♡お♡
奥まで…んお♡挿入らねぇとお♡♡
ぼ、ぼくのっ修行にぃ付き合ってくれるって言ったのにっ♡
おっ♡お♡
嘘だったんですか?!♡
嘘じゃな…
おほっ♡
ほぉ♡
子宮に罪深ち●ぽ叩き込まれるっ♡なんてっ思ってなかった、からぁ♡♡
お♡

はぁ〜♡
ほ♡
おっ♡
まだ出てる♡
バチュッ♡
教祖様♡僕の♡僕だけの！♡♡
んぐ♡
空になるまで本気イキさせたら
教祖様と幸せになれるんだ♡♡♡
ふぅ…♡
おっ♡
びくびくっ♡
イグ〜♡
教祖様に大感謝♡♡♡
もっともっと幸せにして♡
お♡
はぉ♡
嘘じゃないなら
良かった♡
はぁ♡
ちゅぽん♡
んっ♡
みちるさんの身体が
喜んでるってわかって
ザー汁上がってキたぁ♡

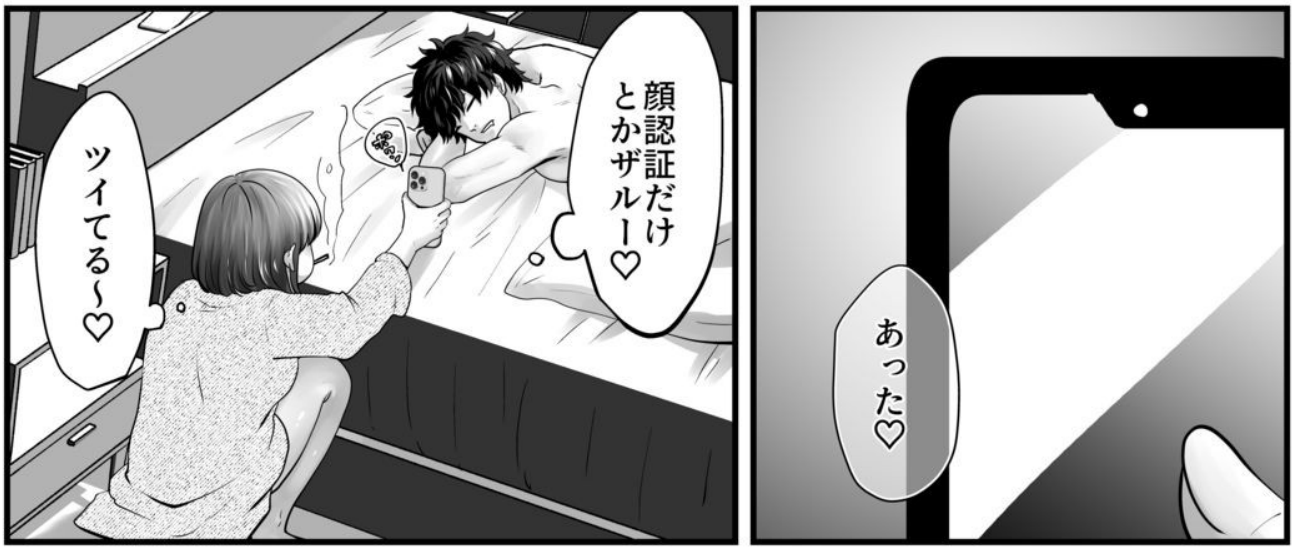
パンッ
パンッ
パンッ

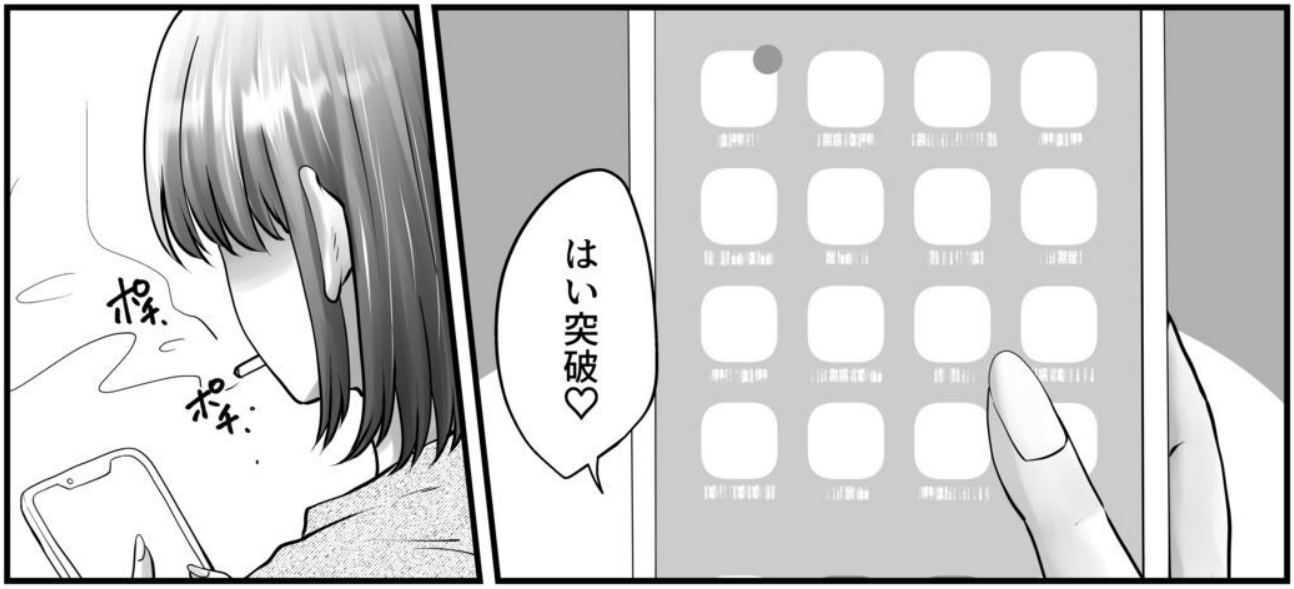
おくっでる♡
孕めづ♡
下剋上精子入っでぐる♡
こ、こんなっ♡イかされたらぁ♡
ほんとに孕む♡♡陰にまみれた赤ちゃんデキる♡
頭トぶ♡

とろ〜♡
おごっ
しまったオホ声がぁ〜
とぷん♡
すっご♡
腹ボテ〜♡
本当に妊娠しちゃうかも♡♡
あ〜〜〜♡卵子出てんのかな♡♡
全部喰いつくしてぇ♡
…っ？
み
ほ
ふ
ん
ちる…さ…

ん…
パキ。
朝……？
あ、
いっ寝たっけ…
よっと、

おお、いいわ…
カシャ
カシャ
カシャ
カシャ
カシャ
次のネタに使えそ～♡
いいの書くぞ～♡
ふふ♡
ス、
カチ、
ジ、
ふ、
ゴソ
ゴソ


あった♡
顔認証だけとかザルー♡
ツイてる～♡


はい突破♡
ポチ、
ポチ、

ふふ、
妻鹿みちる
これで良し、と

んん、
ごろん、
み、ちる、さ…

私のスマホには連絡先は入れてあげない
二徹くんから連絡がなければ切れてしまうくらい薄いものでいい

明日もよろしくね？
黒山羊くん♡

「迷える仔羊を手籠にして教祖になっちゃった話」

ピンポーン、チャイムが鳴り響く
インターホンカメラを見て日々鬱屈としていた私の日常が変わる予感がした。
「貴女は神を信じますか」
続々と悪寒のように感じるこの感覚、若い頃に何度も経験したこの感覚、覚えてる。
これは（膣キュンだ！）

妻鹿みちる、三十四歳。夫と結婚して８年目の執筆家。主に書いているのは官能小説。
ありがたい事に毎回重版がかかるくらいには読んでもらえているらしい
しかし半年ほど前に夫は５年程の海外勤務が決まり私も国外に出るのは億劫だった為に
別居生活が決まった。帰って来るのは年に一度か二度ほど。夫のことは愛しているけれどでも…
「こっちにいる頃から体の相性は良くなかったんだよねぇ…」
今のこの生活に不満がある訳では決してない。でもたまには刺激だって欲しくなるのだ、主に身体の。
みちるは両足を擦り合わせて手を股間へと這わせる。
いつも昼下がりのこの時間に無性に欲しくなり毎日のように自分で慰めるのが日課になっていた。

ピンポーン

ダイニングに通しテーブルを挟んで向かい合い、目の前の大柄な男に麦茶を出す。
「こんな、えと…僕、その、」
「ごめんなさいねえ？私いつも一人で退屈してて…話し相手になってくれたら嬉しいし、そちらの、『希信のまなこ』？のお話も聞かせてもらいたくって」
「……！う、うちの宗教に興味あるんすね!う、うちはその、教祖さまが――――」
正直にいうと宗教になどまるで興味はない、正しくは目の前の青年に大変興味をそそられたのだ。
山羊沼二徹という青年は二十四歳、大柄な体躯に見合わぬ挙動不審さ、自分に自信がないのだろう丸まった背中。
そのくせ全身の筋肉は均等にしっかりとついているアンバランスさ。今までに感じた事のない色気から男からそこはかとなく漏れ出していた。
（うちの教徒たちは毎日熱心に６時間祈りを捧げ、自分たちで育てた作物しか食べねぇし水も全て希望の水を使ってて、あ、ちなみに毎月お布施をするんですが５万以上ならそれ以外は自由寄付だし、明朗で全然怪しく無ェんです。希望の水は希望者には別途買取もできるんでこの機会にぜひ飲んで見てく、ださい!不思議と甘くて美味いんです!それに…）
（うぅん、普段から敬語は使い慣れてないんだろうなぁ）
慣れない敬語で一生懸命に説明する彼の姿は心を揺さぶられた、正確には性癖にささった。
話の内容は一歳頭に入ってはこなかったが一生賢明さと誠実さだけは伝わっただけになんだか面白くなってしまった。
「じゃあさ、私がそこに入ったらどんなメリットがあるの？」
二徹に笑顔で問い勝てるみちるの足先は二徹の脛をなぞる。誘っている事に気がついてもらえているのかいないのか二徹は頬を赤らめ汗をかき始めていた。
なにしろ二徹の女性経験は一人だけ、宗教の教えに従ってか初めて出会った女性教徒と覚えてもいない間の性交渉の一度だけである、女というものを知っているとは程遠かった。
「あ、の、…あ、あし、」

「ん〜？それより二徹くんは偉いなぁ、私なんか日がな一日家で仕事してるだけだもん、毎日熱心にお祈りしてたくさん頑張ってるし凄い幸せになっちゃうねきっと」
「……っ！いや、そんな、…ぅう」
情緒は日頃の不摂生と毎日の催眠じみたお説教によりとっくに逝かれていたあのだろう、突然二徹は涙をぼたぼた流す。
こちらのしたことに何もいえない二徹に笑みを深めたみちるは確信した、おせばいける。立ち上がったみちるは二徹の横に立って自分よりも大きな男を見下ろして舌なめずりをしてから二徹の手をとり自分の豊満な胸に押し当てる。
「んなっ?!何してんだあんた!」
「いーっぱい頑張ってる二徹くんにね、私がご褒美あげようと思って。ね、直に触ってみたくない？」
「そ、んなこ、とは…!」
「二人だけの秘密、つくろうよ、」
耳元に唇を寄せたみちるは甘い声で誘いをかける、大きく唾を飲み込む音が聞こえた。
*
ここは夫婦の寝室、二徹はみちるの膝に頭を乗せられおっぱいに吸い付いていた。
「うふふ、ぁ、♡良い子ねぇ♡二徹くんはすごぉく良い子♡あ、ぁ♡じょーず、♡」
「ぅぷ、んぶ、めが、さ、っ、…っその、すんませ、」
「謝らなくていーの、んっ、ほら、反対側もちゅーちゅーしようねぇ♡」
「は、はぷ、んんっ、んぅ、っ」
「ぁっんっ、♡ふふ、ここに悪い気が溜まってるから泣いちゃったのかなぁ？♡私がいーっぱいシコシコして悪い気がたぁくさん出しちゃおうね♡」
胸を吸わせながら二徹の股間のジッパーを下ろすと勢い良く取り出すバキバキの長大なち〇ぽ
ぼるんっ！(う、うわぁ、でっかぁ♡うちの人の三倍はありそう…♡)
手を添え扱くが小さな手では全てを掴みきれず無意識に亀頭攻めをしてしまい、手のひらでこねくり回されると呆気なくノーモーションで射精し、固形気味の黄ばんだ精液が撒き散らされる。
「…っ？！…っっ？！！？？」
「わぁ、くっさくて濃いねぇ、♡これはまだまだ悪い気が溜まってるのかなあ♡」
「ぼくの、…道がみ、みつかんねぇのも、」
「そう、ここに溜まった悪い気がのせい♡」
「じ、じゃあ、教徒から陰口言われるのも…！」
「ぜーーんぶ悪い気が溜まってるせい♡」
何が起きたか分からない二徹は未知の快感に戸惑いながら胸から漸く口を離すと、ぼんやりした頭で質問を投げかける。みちるは二徹を横に寝かせて腿の上に乗りつつ質問に答えていく。納得は出来かねている二徹であったが段々とみちるが聖女めいたものに見えてきた。
(もしかしたら毎日祈っていたのは妻鹿さんに出会うための修行だったのか？ということは今日のこの儀式は教えであり試練なのか…？！)
もちろんみちるは適当なことを行っているだけでとんだ無責任な女である。
(童貞ではなさそうだけど経験少なそ♡適当にだまくらかしてこのち〇ぽいじめ抜きたーい♡♡)
サイドボードからローションと布を取り出して何をするか分からない二徹は息を整えるのと恥ずかしさでキャパオーバーになっている。肘を後ろ手について様子を見ていると折りたたまれた布が亀頭にかけられる、その上からローションをドバドバとかけられその刺激にすら喉を晒す二徹。その様子を笑顔で見ながらベタベタになったローションガーゼへと手を添えて左右にゆっくり動かしていく

「う゛ぁ、！♡っお゛！♡♡な゛！？！な゛ん゛、♡♡これ、これだめ゛っだ、！♡」
目を見開き腰を跳ね上げブリッジをする二徹。それでも亀頭の攻めをやめることはなく優しい手つきでぬちゃぬちゃと音を立てながら横方向にひたすら擦りあげる
「お゛っ！♡お゛ぅっ♡♡ぉほっ！♡♡めが、っさ、！！♡」
「みちるだよ、にてつくん、ほら、みーちーる、言ってみて？♡」
(これは！試練、試練なんだから！僕は今教えに忠実に射精しようとしてるんだからっ♡他人の奥さんにおち○ぽシコシコされて喜んでるわけじゃねぇから♡♡♡)
「み、み゛ぢる゛さ、っ♡♡も゛、む゛り！！♡♡ほぉ゛っ！♡♡それっそれづよ゛い゛ぃぃ♡♡！！」
「お名前呼べて偉いねぇ♡ほーら、悪い気がどぷどぷ出てきてる♡…あ、これで巻いたらもっといっぱい出て行ってくれるかなぁ？」
二徹の腕に巻かれた数珠を手にとってち○ぽに巻きつけ始めるみちるの奇行に目を剥く二徹
「そ、それは！！！お゛ふっ♡教祖様からぁ！♡直々に洗礼を受けてもらった、んお゛♡もの、でぇっ、！♡♡…ごりごり、っあ゛だる゛っ！♡♡」
「そうなんだぁ？じゃあいっぱい効きそうだねぇ♡ほーら、ぶくーってしてきた♡出そうかなぁ？」
「…っご、ごべ、なさ、」
「んー？なぁに？よく聞こえない♡あ、数珠きもちい？もっとキツく締めてあげよっかぁ♡」
笑顔でち○ぽに巻きつける数珠の巻をもう一回強めていくみちる
「い゛ひぃっ！？♡♡ひぐ、っ、！♡そ、それやだ、っ！♡♡ぎも゛ぢぃ、けどっ♡これ゛っやだ！！はずしでっ、はずじでっくださ、！おぉ゛ふっ！♡♡」
「そっかそっか、お祈りしてるんだね？♡お祈りしたら気持ちよーく精液出せるからねぇ♡♡」
「ちがっむり゛っ！♡それむ゛りっ！！♡♡だ、だしてぇ、の゛っ！！♡♡み、みぢる゛ざっ！♡♡ごべん゛っ！♡♡」
「あーあ、これくらいで泣いてたんじゃあ信仰心が足りないんじゃない？なんのためにいっぱい時間とお金かけてるの？分からないから入る気失せちゃうなぁ…」
「い゛っ、！！ぅ、う゛っ、！！♡う、うそ、っ、♡♡ぼくがまん、でぎる゛っ！♡♡ふぅ、♡！♡♡」
「あは♡そうだよねえ♡それじゃあ…」
言いながらみちるは服を脱ぎ捨てていく、キャミワンピースは胸だけを露出させてスカートはそのまま、下着だけを脱いで落とす。二徹の上にまたがって生ち○ぽを膣に宛がった
「我慢できる良い子には…んっ♡ご褒美に悪い気を直接吸い上げてあげなきゃ♡♡」
「…っほぉっ♡♡ま、まてっ、！♡♡ちょ、ご、ごむ、っ♡孕んじまう、！だめ、だめだっ！♡♡」

ばちゅんっ！！！思い切り腰を振り下ろすみちる

「あぁんっ♡あは、すっごい奥までっ！♡んぅ、っ届いてるぅ、♡！」
「おぉ゛〜〜〜♡♡♡で、っま○こぉっ！♡♡と、とけゅ、！ち○ぽ溶ける゛ぅ゛っ！！♡♡」

し、知らない、こんな感覚。初めての時に無かった！こわいしち○ぽがいたい！苦しくて死んじまいそう。そんな感情が滑車の如く回っても興奮とは毒。女体の真髄に幹を太く実らせるからかぎっ、ぎっ、と珠を繋ぎ止める糸が悲鳴を上げて根元を食い破らんとしている。蜜滴れど精に飢える二律背反な粘膜でしゃぶられる度、唇が震えて咳が漏れ出てしまう。しぬ。多分これはほんとうに帰れなくなる。家にも魂も、だ。
「あはは♡びっくんびっくんってお腹で大暴れしてこわ〜い♡ねっ♡これ、外したら出ちゃいそうねぇ？♡」
俗にいうあくまの、ささやき。いくら修練とはいえ人の妻を孕ませるような行為はほんとうに許されるのか？教祖様はイエスと頷くのか？わからない。大きく弾むおっぱいに気を取られている矮小な僕にはもう、なにもわか

らない。ただち○ぽの管が切れて駄目になる前にどうにかしたいという獣と同等の判断力しかないのだ。ちか、と明滅を起こす双眸の焦点を合わせ、己の唇を舐め――

「は、ぁ゛っ♡ぐ♡う゛ぅっ♡う゛～～っ♡♡はっ♡は♡外さな、いれ゛……」

「ふぅ♡はぁっ♡あ♡太さ以外はだめだめばぶちゃんおち○ぽでおま○こ耕すのきもち～♡ねえ、ほんとうは～？♡」

「ほぉ゛っ♡お゛♡お゛っっ♡ほんとぉ゛っ♡は♡ぁ、は♡は、は、外さないのがっ♡し、真実らからぁ゛♡」

「強情な子ぉ♡だあれも見てないんだし罪にもならないでしょ？♡私も隠してあげるんだから……♡」

「ぅ、ぎゅっ♡♡かはっ♡は一っ♡は、ひ♡そ、それでもぉ゛……こ、これいじょ、ぉ゛はっ♡」

ぎゅっ、と母親が子にする抱擁じみた締め付けなのに力一杯握られたようにしか感じない。すくわれたい。こんなにもいい教徒なんだからっ！救ってくれ！思わず胸元で指を結んで祈ってしまえばみちるさんが腰を止め、浮かしてくれた。行動で示すと道は開かれる……教祖様の言う通りだ。

「えいっ♡」

うねる肉の壺から解放されたのも束の間、鬱血し赤黒く染まりかけていた竿を戒める数珠が外れた反動で尿道が沸騰しきった種を汲み上げて一層大きく脈打った。ああ、もうみんな意地悪……。ぅ、ぐ……っ♡？♡へ？？♡

「……～～～～～～♡♡♡ぁ゛？！♡あ゛ぁ、あ゛ぁ゛あ゛～～～っっ♡♡と、止まれ゛♡ザーメン止まって゛♡むり♡だめ♡じ、じごく行き゛♡こ゛れほん゛とにあ゛たま焼けちまう゛っ♡♡」

「勢いすっご～い♡ぱつぱつの金玉からどんよりした陰の気が出てきてる♡ふふっ♡よしよし♡魂は裁かれちゃうかもだけど、おちんちんは天国に行こうね♡」

「……は、っ……はぁ……♡ん゛んっ♡」

未知の快感は時として脅威だ。僕の意識という名のコントロールされたもの、金と引き換えに得た実りのないそこそこの地位、植え付けられた常識の全部が粘っこさとダマが消えないザーメンと一緒に射精る♡射精るっ♡まだでるっ♡あ゛ー、でる……♡さっきのような迷いも一切ない、ただ求めるのは満足そうにこちらを見下ろす雌を確実に托卵させてえ。羽衣を掬いで自分と同じ位置まで堕としてやりたいだけでいっぱい。生存本能のなんともまあ、あさましいこと。

「ふふ、やぎじゃなくておおかみじゃない。童話かしら？」

「っ？！……ち、直視したら、慎ましくいれなくなるのに、どうして……」

「慎ましく、ね。閨でずこずこするなら要らなくない？♡目を背けてきたもの、ぜーんぶ解放しちゃいなさ～い♡」

「……み、みちるさんっ♡そんな手の引かれ方されたら、ぼく……っ！♡」

「っ♡押さえ付けなくたって逃げな……ひゃ、う゛っ♡♡カリでもしがみついちゃって、可愛い♡必死ねえ♡」

重いものなど持てなさそうな真白い指が前髪を払ったからか、毛先で所々隠れるだとかぼやけた輪郭ではない彼女を片目が捉えた瞬間、馬を飼い慣らす体位から仰向けになるように倒してやった。上体を伏せ、僕の唾液で湿るたわわなおっぱいを胸板で潰してくっつけば華奢な線をした首に痕が残ってしまうのも忘れ、ただ噛み。軋むスプリングも気に留めずぱん、と肉の音を激しく鳴らしGスポットのざらつきを擦り上げた。

「ふ～っ♡ふぅ゛～っ♡おま○こすることしか考えられね♡み゛ちる、さ、♡セックスが祈るよりきもちいのいけないのに゛♡」

「あ゛んっ♡お゛♡チェリー丸出しピストンなのにち○ぽおっきいから擦れる範囲もでっか♡♡ぅ゛♡んぉっ♡いっ♡祈りに縋るのはむ～だ♡目合い（まぐわい）がね、二徹くんを真の意味で救ってくれるの♡」

おおよそ綺麗とは思えない嬌声混じりに吹き込まれる言葉が今まで聞いた説法のどれよりも染みてしまう。頬、鼻先、耳の全てが熱くて仕方がない。ほそい光を信じ、痩せ細った心が幸福感に満ちる。もしや、もしかしたら、僕の教祖は――

「ぇ？すく、う？」

「んゞ、くぅっ♡ほっ♡そ、そう♡私のナカに溜まりまくった不浄な欲を出せば全てがうまくいくんだよね……ぇゞ、おっっ♡♡いゞぐっ♡……はっ♡出ちゃったんだあ？♡また浄化進んだよ〜♡えらあい♡」
「はひっ♡はっ、へ♡へっ♡あ、ありがとぉゞございゞます♡♡」
細まった瞳、頭を撫でる掌にへこつきが止まらない腰が止まる。やさしい。きもちいい。ずっと味わっていたい。膣に収まりきらない精がぶびゅ、と結合部から漏れ出る心地良さと同時に鉛が詰まっているような身体が軽くなっている。よく考えれば忙しさにかまけてヌキ忘れていただけの重さなのだが理性が欠けた状態では本当にそんな力があると信じてしまうのだ。洗脳とはかくも恐ろしい。
「んふふ♡まだ澱んでるなあ。朝まで修行（こうび）、しよ？♡」
僕の身を押しながら一緒に起き上がるみちるさんをぼんやりともやの掛かる視界で眺めていればぐぽ、なんて萎え知らずのち〇ぽを引っこ抜く際の名残惜しげな肉壁の吸引が剥がれる刺激で息が詰まる。うゞ、と呻く間にもこちらへ背を向けシーツにおっぱいを押し付け、臀部を突き出す———女豹のポーズというのだろうか。扇情的な光景に耐えきれずウェストに引っ掛かったワンピースのカーテンを雑に剥がす。これでも、もし何処がか破れたら弁償しますと祈っているのだ。一応。
「これ……」
恐る恐る腰に刻まれたタトゥーを指腹で撫でると擽ったそうにみちるさんの肩が震える。
「それはね、二徹くんが本当に信奉すべきものの象徴」
「このまなこ、が」
「そう。網膜に焼き付くまで覚えておいて」
「……うん」
みちるさんが宿している目に魅入る。おぞましさの中に美しさを拾えてしまう不思議なデザインに背を押され、雰囲気の例えでない意味での女神様に思える。あれ？僕はここに何をしに来たんだっけ……。
「空になるまで正してあげちゃお♡はあ〜い♡いいこは挿入ろ♡迷えるおち〇ぽいらっしゃい♡」
「おゞふぅゞ、うゞっ♡♡さっきみたいになんゞも考えられなくゞなるゞっ♡」
混乱をよそに迸る熱で持ち上がり続けるち〇ぽが白濁が泡立つ雌穴へまた誘われればぶち、ぶち、と頭の血管が断たれる鈍い音が聞こえてきた。みちるさんの括れたウエストを掴み、快楽の名付けがされた導きに従うだけのひつじへと戻る。
「いいの♡私と繋がる事だけ考え……っ、うぉゞっ♡♡そ、そぉ♡このままおち〇ぽで信じるものを間違ってっ♡ご、ごめんなさいゞってしよ♡ね？♡ぇゞ♡へっ♡へっ♡♡し、子宮とちゅうしてるゞ♡」
「みゞ♡みちるさ、んゞとっ♡出会うゞの遅くてゞごめんゞなさいゞっ♡♡神聖なゞポルチオ様にぶっかけるのでっ♡♡不義を許してくださいゞっっ♡♡んゞん〜〜〜っ♡♡射精るゞっ♡♡」
古の話に六日ほどの交わりを経て人としての営みを知る者がいた———という本を読んだ記憶があるが、これでは逆だと思う。今の自分はもはや肉慾の化身だ。子宮口を亀頭で殴り続ける行動に囚われて、止まれない。このままほんとに六日吐き出し続けてえ。でもこれ以上他人の妻に手を出し続けたくない。……あ？今、変な音が、
「んほぉゞっっ？！♡♡おごっ♡あ♡あの人も挿入ったことないとこまでぶち抜かれちゃ……っ、おゞっ♡おゞ♡おゞ？！？♡♡掘削やば♡♡に、二徹くんの徳が高まっちゃうゞ♡♡」
「あゞりがとうゞございゞます♡もっと高みに向かわせてくださいゞ♡♡」
力が抜けたのか突き上げられていた臀部が落ちていく。逃げないで！もっと僕を清めてくれ！と焦るあまり、ガニ股開脚の体勢で伸びているみちるさん———否、教祖様にぴったり被さってうつ伏せのまま狭い子宮の中へピストンをキメる♡
「おゞぉゞお〜〜〜んっっ♡♡ど、ど急所ぉっ♡馬鹿になりそうなくらいゞ効くゞぅゞ♡♡生の気がどぱどぱ出りゅゞ♡」
「っ、駄目だろ♡奥までがっつり挿入らねえとぉゞ♡♡みちるさんっ♡はっ♡あ♡ふ、ぁゞっ♡ぼ、僕の修行（こうび）に付き合ってくれるって言ったのにっ♡♡嘘なんですかっ♡♡」

「かはっ♡ん、ぎぃ゛っ♡♡う゛、嘘じゃないけど♡し、子宮に罪深ち〇ぽ叩き込まれる゛なんて思ってなかったからぁ♡おほっ♡ほっ♡お゛、ひ♡♡い゛ぐっ♡い゛ぐい゛ぐっっ♡♡」
ぬぢゅ、とひたすらち〇ぽを搾る襞を腰を回し攪拌すれば仰け反ろうとする背が沈む変化に煽られて、一回り竿が膨れてしまう。横から覗いて見えた顔は赤みを帯びてお揃い。舌をでろ、と突き出すあられもなさに金玉が重怠くなった。空になるまで本気イキさせたら幸せになるんだ♡教祖様に感謝♡
「あー……♡あ♡はぁ♡ふぅ゛♡嘘じゃないならよかった♡みちるさんの身体が喜んでるって分かったしザーメン上がってきましたっ♡♡」
「お゛ぇ♡お腹ずっとぼっこぼこにされて苦し……♡まって♡まってぇ゛♡♡二徹くん♡待て♡高次に昇り過ぎちゃう゛♡」
「僕はそこに辿り着きてえ゛のっ♡♡みちるさん゛っ♡イけっ♡どろっどろの種で孕んじまえっ♡♡孕んでっ♡♡」
「下克上されて゛るぅ♡♡こっ♡こんなにイかされたらぁ゛♡お゛っ♡お♡お゛♡ほっ♡♡ほん゛とに孕む゛♡陰に塗れた赤ちゃん出来る゛♡♡あたまトぶっ♡♡い゛っっぎゅ゛♡♡」
それっぽい言葉を並べていたけれど、結局最初の卵子を食い潰したい欲求が鎌首を擡げて唇から零れていく。お互いに螺子が飛んでいるお陰で覚えられないのが救いだろうか。いや、逃げか。目を剥いて腰部をかくつかせるみちるさんのちいさな、ちいさな子宮に固形のごろつきが控えめになってきた精子をぱんぱんに注ぎ込んでからち〇ぽを抜く。髪糸に滴る汗を拭ってから脱力した身体を横に向かせ、片足を肩に掛けた。僕はその後もひたすらもやもやを大鳴きする教祖様へ吐き出して———意識が途切れた。おやすみを思う暇すらなかったと思う。

*

ちゅん、ちゅん。鳥の囀りで砂に沈んだような意識を手探りに掘りだし、痛む上体を起こす。昨日の情事の激しさを物語る匂いや服の散り方に一種の芸術———己の次の小説のネタになりそうだと予想外の収穫に内心ガッツポーズを取った。サイドテーブルから煙草を摘み、咥えた紙へ火を点し紫煙を吐きながら隣に横たい、危機感なく未だ寝息を立てるかわいそうな山羊のジャケットを漁って胸ポケットからスマートフォンを掴むと躊躇なく電源を付けてみる。
「ロックが掛かってたけど顔認証か。ツイてるなあ」
パスコードはパターンがほぼ無数と言っていいほどあるのだが、顔認証はというと……。
「はい、突破♡」
持ち主が近くに居るのなら究極のザル警備。アプリに情報を残すのは弱みになるし彼を上手く扱うならこれくらい細い関係のがいいだろうと電話帳を開いて、番号を登録しておく。名前はシンプルに妻鹿 みちるだ。きみの身体の旨味を吸うだけ吸って、唆す最低な女。
「明日もよろしくね♡黒い羊くん」
彼の頬を撫でつつ、灰皿に燃えた草の死骸を落とした。

初版：2025.05
著者：原作　；；(かなしい)／作画　春日たろう
サークル：非常口